

水

安か多

全島統合上水道の現況と計画の概要

1970年5月



琉球水道公社

IA②

SK0024

＝企業局＝

目 次

1. 全島統合上水道施設の現況	1
2. 水道料金	4
3. 水需要と基本計画の実施	5
4. 水資源開発と工業用水	6
5. 工業用水道の可能性	7
6. 水資源確保に関連する諸問題	7

附 表

1A 公社給水市町村概略図	9
1B 市町村給水契約年月日	10
1C 市町村に対する公社分水栓数	11
1D 市町村上水道給水栓数	12
1E 市町村水道有収率	13
2A 全島統合上水道年間1日平均需要量の推移	14
2B 表—2Aの図表	15
2C 全島統合上水道需要量の推移	16
2D 市町村別公社給水量の推移	17
2E 表—2Dの図表	18
2F 1969会計年度市町村別公社給水量の比率	19
3 市町村現行水道料金	20
4A 本土用水供給事業現行水道料金例	22
4B 本土市町村現行水道料金例	23
5 市町村別大口需要者一覧表	26
6 全琉水道普及率及び施設数	28
全島統合上水道主要施設概要図	29

1. 全島統合上水道の現況

全島統合上水道は、沖縄本島の主要な用水供給源である。この施設は在琉米陸軍および琉球水道公社所有の施設からなっている。該統合上水道の維持管理運営の責任は、両者間の協定に基づいて在琉米陸軍ファシリティー、エンジニアが負い、公社は該施設から民間需要水量の供給をうけている。

全島統合上水道のおもな施設は次のとおりである。

(1) ダム貯水池

施設名	貯水能力	
	万ガロン	千立方米
瑞慶山ダム	62,000	(235)
天願ダム	33,000	(125)
ハンセンダム	6,000	(23)
平山ダム	4,000	(15)
計	105,000	(398)

(2) 浄水場

施設名	浄水能力	
	万ガロン/日	千立方米/日
石川浄水場	2,000	(75.8)
タイベース浄水場	1,500	(56.8)
天願水浄場	700	(26.5)
桑江浄水場	80	(3.0)
与座浄水場	70	(2.7)
泊浄水場(那覇市所有)	600	(22.7)
計	4,950	(187.5)

(3) 群井戸

場所	井戸数	揚水能力	
		万ガロン/日	千立方米/日
嘉手納地域	18	800	(30.3)
天願地域	5	300	(11.4)
登川地域	7	200	(7.6)
計	30	1,300	(49.3)

(4) 浄水池

場所	容量	
	万ガロン	千立方米
石川浄水場	500	(18.9)
タイベース浄水場	200	(7.6)
天願浄水場	150	(5.7)
登川群井戸コントロール室	20	(0.8)
計	870	(33.0)

(5) 配水池

施設名	容量	
	万ガロン	千立方米
上間配水池	1,000	(37.9)
プラザ No.1 配水池	500	(18.9)
プラザ No.2 配水池	150	(5.7)
大謝名配水池	500	(18.9)
南上原配水池	200	(7.6)
読谷配水池	200	(7.6)
その他 55 池	2,110	(79.9)
計	4,660	(176.5)
(原水) 石川原水タンク	1,000	(37.9)

(6) 増圧ポンプ場

施設名	平常能力	
	万ガロン/日	千立方米/日
許田増圧ポンプ場	2,600	(98.5)
コザ増圧ポンプ場	430	(16.3)
普天間増圧ポンプ場	200	(7.6)
北谷増圧ポンプ場	350	(13.3)
嘉数増圧ポンプ場	780	(29.5)
那覇エアベース増圧ポンプ場	340	(12.9)
豊見城増圧ポンプ場	220	(8.3)
その他 3	290	(11.0)
計	5,210	(197.4)

(7) 導配水本管

管内径 (インチ)	導水管延長 (メートル)	配水管延長 (メートル)	計 (メートル)
36	45,905	34,746	80,651
32	—	4,770	4,770
30	20,994	2,710	23,704
24	343	12,636	12,979
20	1,706	16,102	17,808
18	—	11,053	11,053

その他16. 14. 12. 10. 8. 6インチの導配水管がある。

(8) 水源 (表流水・地下水取水施設)

(イ) 石川浄水場系統

取水施設名	河川名	平常取水能力	
		万ガロン/日	千立方米/日
福地ポンプ場	福地川—ダム建設中	650	(24.6)
大保ポンプ場	大保川	330	(12.5)
平南ポンプ場	平南川	210	(8.0)
源河ポンプ場	源河川	380	(14.4)
大川ポンプ場	久志大川	150	(6.0)
漢那ポンプ場	漢那川	200	(7.6)
ハンセンポンプ場	オククビ川	200	(7.6)
計		2,120	(80.7)

(ロ) タイベース浄水場系統

取水施設名	河川名	平常取水能力	
		万ガロン/日	千立方米/日
比謝川ポンプ場	比謝川— 瑞慶山ダム、平山ダム	1,000	(37.9)
嘉手納群井戸		800	(30.3)
計		1,800	(68.2)

(ハ) 天願浄水場系統

取水施設名	河川名	平常取水能力	
		万ガロン/日	千立方米/日
川崎ポンプ場	天願川—天願ダム	700	(26.5)
天願群井戸		300	(11.4)
計		1,000	(37.9)

(ニ) 泊浄水場系統

取水施設名	河川名	平常取水能力	
		万ガロン/日	千立方米/日
長田川ポンプ場	長田川—比謝川ダム	350	(13.3)
牧港ポンプ場	青小堀湧泉、牧港川	250	(9.5)
安謝ポンプ場	銘苅川等		
計		600	(22.8)

(ホ) その他の系統

桑江浄水場	A 湧泉	80	(3.0)
与座浄水場	B 湧泉、シラヒ川	70	(2.7)
登川群井戸	与座湧泉	200	(7.6)
計		350	(13.3)

平常取水能力 総計 5,870万ガロン/日 (222.9千立方米/日)

琉球水道公社は沖縄における唯一の用水供給事業体で、市町村との給水契約によって水を供給し、一般需要者は市町村から給水を受けている。現在公社が供給している市町村は那覇市を含む中南部の19市町村および1水道組合である。(表1参照)

1969年の年間1日平均需要量は4,200万ガロン(159,000立方米)、日最大需要量は5,500万ガロン(209,000立方米)であった。

この需要量の約3分の1は米軍、残りの3分の2は民間需要となっている。民間需要の51.5%は那覇市が占めている。

過去の需要の推移については表-2の通りである。米軍需要は横ばい状態だが、民間需要は年平均約20%の高い伸び率を示している。

1960年から1969年までの9年間に民間需要は実に4.7倍に伸びたことになる。この驚くべき伸展の理由として次の諸点が考えられる。

(1) 戦後中南部が急速に都市化したこと。(2) 都市の人口、産業の増大および過密化によって地域内の地下水が汚染された。(3) 地域内及び近郊に水源の不足を生じ需要をみたすため遠隔地の水源に頼らなければならなくなった。(4) これに対処するため水道公社による用水供給事業が実施拡張され市町村も積極的に水道事業の拡充に努めた。(5) 政府が財政面等の負担によって水道の普及を促進した。(6) 住民の衛生思想、生活程度の向上と経済活動の発展によって1人1日当りの給水量が増大したこと。

2. 水道料金

統合上水道から琉球水道公社への原価料金は

(1) 浄水	1,000ガロン(約3.79立方米)当り	\$ 0.117
(2) 原水	"	\$ 0.0396

公社から市町村への卸し料金(1958年創設以来)は

(1) 浄水	1,000ガロン(約3.79立方米)当り	\$ 0.2194
(2) 原水	"	\$ 0.08

となっている。原水は始んど那覇市に供給している。

公社では、1967年に米国のコンサルタント・エンジニア R. W. BECK 社に現行料金の再査定を為、調査分析を依頼した。その結果、現在のように償還義務のない外部からの財政援助（今日まで全て米国政府の資金援助）が今後も続くものとして、少なくとも1978年までは現行料金は適正料金という結論になっている。

また、市町村の需要者に対する水道料金は表-3のように市町村によって格差がある。今後の市町村の水道事業（簡易水道も含めて）の運営及び水道料金のあり方については琉球政府の水道行政における政策的課題である。

ちなみに料金について本土と比較してみると表-4に示すように、本土の高い部類に属する。しかし、本土では一般に水道料金は値上げの傾向にあるが、沖縄の市町村では逆に値下げムードであるのは興味深い。

なお、該統合上水道施設は沖縄本島の地形、地勢、人口分布上下利な条件下にある。例えば統合上水道の無収率は僅か8%であるが、人口、産業は中南部に集中し水源の大半が北部の遠隔地にある。即ち水需要の地域的分布と水賦存の地域的分布が対応していない。自然落差が少なく動力費が多くかかり、また河川汚濁のため多額の薬品費を必要とする。

従って、ダム貯水池、取水ポンプ場、増圧ポンプ場、浄水場、配水池及び導配水管等の巨費を投じた多種多様の大規模な施設運営を強いられている。水道事業の公共性の見地から、できるだけ低廉な水の供給を要求されるが、料金は国庫負担や起債条件もさることながら、水道のおかれた立地条件によって大幅に拘束される。

3. 水需要と基本計画の実施

琉球水道公社では西暦2000年の水需要を目標として基本計画（マスタープラン）を1962年に策定し、水道施設の拡充に努力してきたが、その後数年にしてこの基本計画による予測需要量を遙かに上回ることが想定されたので、水源開発、施設拡張計画を大幅に変更して激増する需要に対処してきた。例えば、この当初の基本計画によると、1972年の1日平均需要量を3,700万ガロン（140,000立方米）と予測していたが、これは1968年の実績に相当する。公社では沖縄本島中部の水源開発及び施設拡張に加えて1967年以来、基本開発計画の一環として北部の水源開発（河川自然流水）を実施して今日に至っている。このように供給計画を実施してきたので、1967年の渇水期以外は総体的に用水不足に見舞われずにすんだ。

水道も他の公共施設同様、建設に長期間を要し、したがって施設建設が必要に先行して実施されなければならない。しかも施設の建設は長期計画を目標としたものでなければならない。そのためにばう大な先行投資が必要である。

水源を中心とした主要な建設計画について述べると、既存の主な水源については前述のとおりだが現在開発中の水源は具志川に於ける群井戸（13）と福地川貯水池（ダム）である。具志川市の群井戸は現在試運転中で日量800万ガロン（30,000立方米）を見込んでいる。福地ダムの貯水能力は97億7千万ガロン（3,700万立方米）で1日平均3,300万ガロン（125,000立方米）の取水が可能である。しかしこのダムは1972年にしか完成されないののでその間、増大しつつある水需要を満たすため更に地下水源開発を進めている。

福地ダムを含めた今後の沖縄本島北部における水源開発に伴い新たに東海岸沿い（13号線道路）に福地ダム、石川浄水場間の原水導水管と石川浄水場から那覇上間配水池間に浄水配水管を敷設しこれと伴行して石川浄水場の浄水能力も現在の日産2,000万ガロン（76,000立方米）から2倍の4,000万ガロン（152,000立方米）、1日最大6,000万ガロン

（228,000立方米）の規模に拡張する計画である。また那覇市を中心とした近郊人口密集地帯の今後の需要に対処するために1,000万ガロンの配水池を増設中である。

全島統合上水道施設の拡張、強化のための主要な年次建設計画（マスタープラン）について参考のため概要図を添付した。莫大な資金を要するこの施設計画に関しては資金の確保が最も重要な課題である。

さらに水需要を予測することは多くの要素がからんでいるため容易なことではない。福地ダムが完成すれば少なくとも十数年後の需給をバランスさせることが出来ると想定していたが、最近の公社の水需要予測によれば1975年頃以降の需要に対処するためには更に水資源の開発が必要である。有望な未開発水源地については後で述べる。

統合上水道年間1日平均需要量の予測

歴 年	100万ガロン/日
1970	49
1972	61
1975	75
1978	88
1980	95

4. 水源開発と工業用水

前述の通り全島統合上水道が現在取水および拡充中の主要な水源は中部の6河川および群井戸と北部の7河川である。既存の水道施設の供給能力は平常降水状況の場合日量5,800万ガロン（220,000立方米）程度である。1969年の日最大需要量は5,500万ガロン（208,000立方米）であるからあまり余裕はないように思われる。これは他の施設能力の余裕に比べて河川水の貯水施設（ダム）能力が不十分なためである。

沖縄本島にはおよそ68の大小河川があり各種用水に表流水が利用されている反面、大量の水が利用されずに直接海に流出している。琉球水道公社は1963年以来、年間5～7万ドルを投じて水源開発に不可欠な河川流量調査を実施している。17の河川に自動記録装置（水位・雨量計）を設置し他の18の河川については基底流量の直接測定を行っている。最近企業誘致に関連して産業基盤の一つである工業用水の問題が提起されているが公社の水源開発、水道施設の現状および計画は主として増大する生活用水及び小規模産業用水が対象である。

ちなみに現在の各市町村水道の大口需要者を種別するとホテル、飲食店、清涼飲料工場、学校、娯楽場、クリーニング等（表-5）となっている。大量の工業用水の確保は中南部には期待できないであろうから今後の生活用水のみならず工業用水の需要に対してもその大部分は沖縄本島北部の河川の水に依存するほかはない。沖縄は世界第2の多雨地帯である日本で極めて降水に恵まれた地域であるが、地勢がそれにとまわらない為、せつかくの降水も短時間で海に流れ去ってしまう。従って変動する河川の自然流量のみでは年間を通して大量の需要をまかなえないのでダムによって出水時の水を貯留して流量調整の方策を講じなければならない。反面、漏水防止対策や水の再利用も水源開発に匹敵することを忘れてはならない。

琉球水道公社が開発している沖縄本島北部の水源については（福地川を除いて）すべて自然流水を取水しているが、これは増大する需要を満たすため早急な水源開発の必要に迫られて施設されたもので、1962年の基本計画やその後の基本計画で北部の主要河川に於け

るダムが調査研究されたのである。例えば漢那川、久志大川、大浦川、汀間川、羽地川、平南川、福地川等。当時これらの河川は水源として量的、経済的及び時期的に限界があったのでダム建設の実現に至らなかった。なお当初の基本計画(1962年)の中で漫湖・塩屋湾の淡水化についても比較検討した。

沖縄本島北部の未開発又は十分利用されていない主要河川は、東海岸側の安波川、新川、普久川(ファン川)、汀間川、大浦川、スギンダ川、および西海岸側の辺野喜川、与那川、比地川、タイホザ川、田嘉里川、平南川、羽地川、大井川、満名川等である。公社は、特に東海岸沿いの河川に近い将来の開発目標にしている。しかし工業用水の確保が問題になっている現在、河川を高度に利用するため上水道、工業、農業用水の需要に対する合理的な水資源開発(単一又は多目的開発)について慎重に検討する必要があると考える。開発可能取水量や水のコストについては今後の調査研究を待たねばならない。長期的展望としては海水の実用的淡水化も考慮に入れる必要があると考えられるので急速に発展していく社会・経済情勢に対処するため水源の開発に対して積極的な政府の財政的配慮がなされなければならない。

5. 工業用水道の可能性

本土には工業用水道があつて企業に用水供給している所があるが、沖縄にはこのような施設はなく散在している各企業は自己水(地下水・表流水)と上水道を併用しているようである。現在本土のような用水型大規模企業は存在しない。将来大型企業が誘致されて特別工業地帯(ゾーニング)が設定され工業用水の需要が増大すれば工業用水道(原水)も可能となろうし、その必要性も高まってくると思われる。

6. 水資源確保に関連する諸問題

地下水を含めて水源を開発するにあつたて、用地の取得以外に水利権の問題、更に取水されている河川や流域の水の汚染防止の問題がつきまとう。

琉球水道公社ではこれまで公共団体、地域住民の理解と協力を得て水の確保に努めてきたが、近年各種用水の需要の急増をめぐって水の所有権の確保、権利の附与、保護のあり方、また工場廃水や生活下水の排出量の増大による河川の汚染は益々深刻化している。従つて水の確保、水質の保全、水源の涵養は最も重要且つ緊急な水政策問題である。

著るしく変動する現在の社会・経済情勢に対応し得るように、水政策に関連する諸規制法律の改正又は立法化及びその強力な施行が急務である。

附 表

村町市水給社公

1969年12月末現在

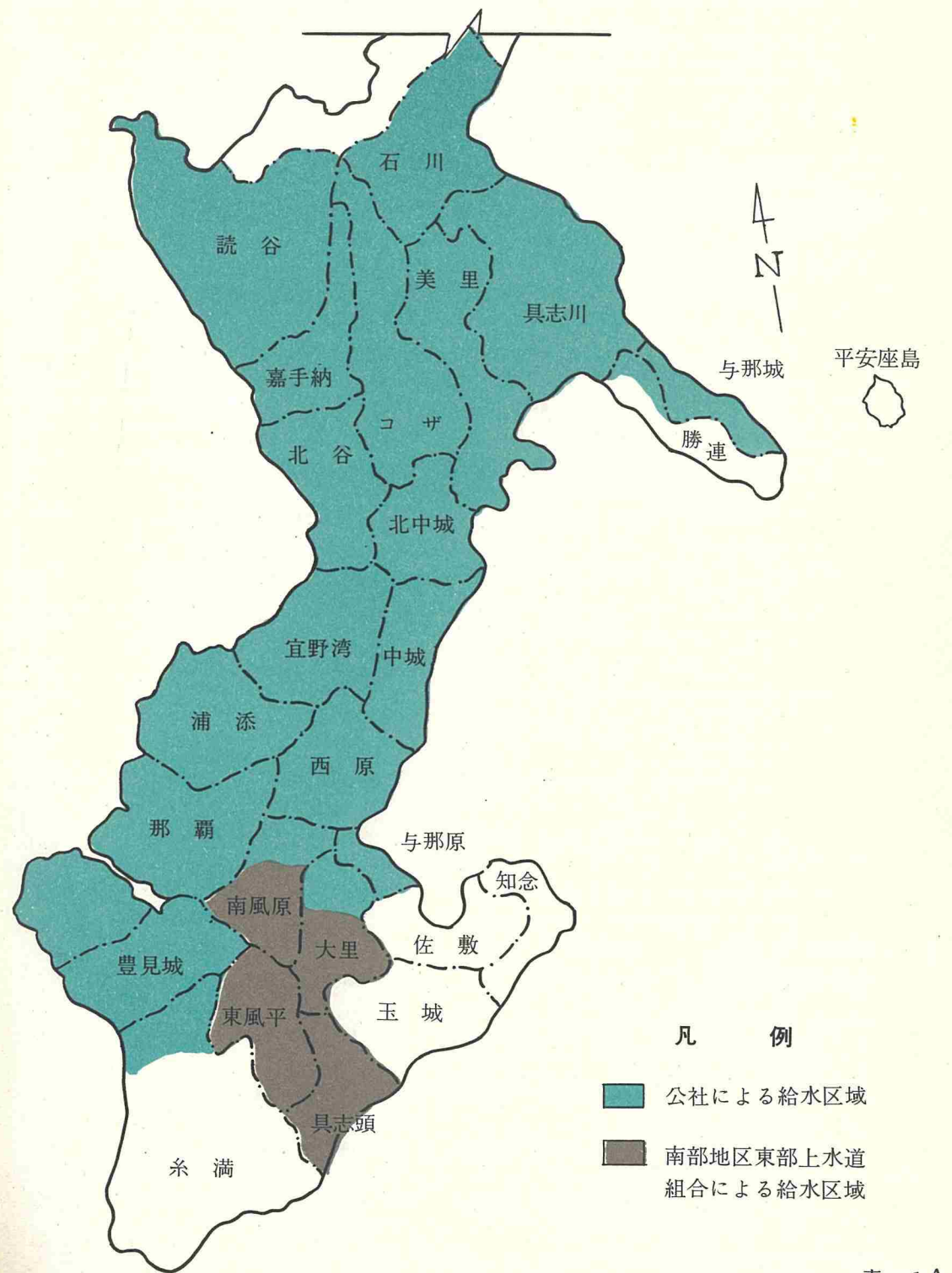


表-1A

市町村分水契約年月日

番号	市 町 村	契約年月日	備 考
1	北 中 城 村	1963年 4月10日	
2	那 覇 市	1963年 7月1日	
3	美 里 村	"	
4	宜 野 湾 市	"	
5	読 谷 村	"	
6	与 那 城 村	"	
7	浦 添 村	1963年 10月1日	
8	具 志 川 市	"	
9	北 谷 村	1963年 10月11日	
10	コ ザ 市	1963年 12月1日	
11	嘉 手 納 村	1964年 7月1日	
12	西 原 村	1966年 12月1日	
13	石 川 市	1967年 9月1日	
14	与 那 原 町	1967年 10月1日	
15	豊 見 城 村	1967年 11月1日	
16	南 部 地 区 東 部 上 水 道 組 合	1968年 1月22日	東風平, 南風原, 大里 具志頭村に給水
17	中 城 村	1968年 7月1日	
18	勝 連 村	1969年 3月28日	
19	糸 満 町	1969年 7月1日	
20	佐 敷 村	1969年 12月18日	

市町村に対する公社分水栓数

1969年12月31日現在

市 町 村	分水栓数
北 中 城 村	2 8
宜 野 湾 市	2 6
那 覇 市	2 0
読 谷 村	2 0
浦 添 村	1 8
具 志 川 市	1 7
美 里 村	1 1
北 谷 村	7
コ ザ 市	6
嘉 手 納 村	5
南 部 地 区 東 部 上 水 道 組 合	5
与 那 城 村	4
糸 満 町	3
与 那 原 町	2
西 原 村	2
豊 見 城 村	2
石 川 市	1
中 城 村	1
勝 連 村	1
計	1 7 9

市町村上水道給水栓数

1969年12月末現在

市 町 村	給水栓数	備 考
那 覇 市	48,023	
コザ市	12,345	
宜野湾市	9,489	
浦添村	9,212	
具志川市	4,383	
読谷村	4,269	
美里村	3,499	
北谷村	2,602	
嘉手納村	2,313	
石川市	2,306	
与那原町	1,571	
北中城村	1,356	
南部地区 東部上水道組合	1,194	総栓数6,007 の中 1,194 は公社依存
与那城村	563	
西原村	527	
豊見城村	226	
中城村	85	
糸満町	3	水道事業未開始の為 公社分水栓を示す。
勝連村	1	
佐敷村	0	
計	103,967	

表-1D

市 町 村 有 収 率

1969会計年度

市 町 村	有収率 (%)
那 覇 市	6.9
コザ市	7.8
宜野湾市	7.4
浦添村	8.3
美里村	6.1
北中城村	8.1
具志川市	8.3
読谷村	8.8
嘉手納村	8.2
北谷村	7.8
西原村	9.6
石川市	9.0
豊見城村	9.5
与那原町	9.5
南部地区東部上水道組合	7.4

全島統合水道1日平均需要量

歴年	軍	民	対前年比増(減) %	総計	対前年比増(減) %
1960	12.6	6.0 (2.8)	—	18.6	—
61	12.3	7.8 (3.1)	30	20.1	8
62	13.5	9.8 (3.4)	26	23.3	16
63	10.6	9.5 (2.6)	(3)	20.1	(14)
64	10.4	12.0 (3.8)	26	22.4	11
65	11.5	13.9 (4.8)	16	25.4	13
66	13.0	16.4 (5.6)	18	29.4	16
67	13.1	19.7 (5.5)	20	32.8	12
68	12.6	24.3 (5.6)	23	36.9	13
69	14.1	28.2 (5.9)	16	42.3	15

単位 100 万ガロン

註 民の () 内泊浄水場生産量

全島統合水道一日平均需要水量推移

(泊浄水場生産量を含む)

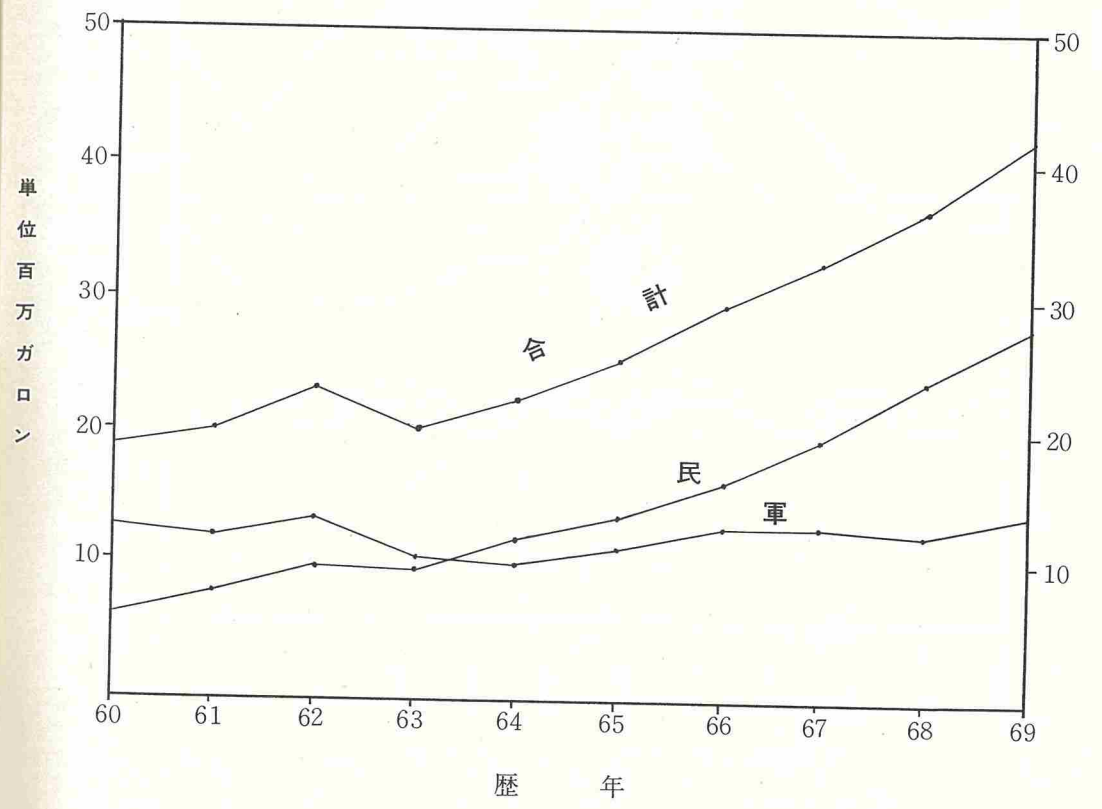
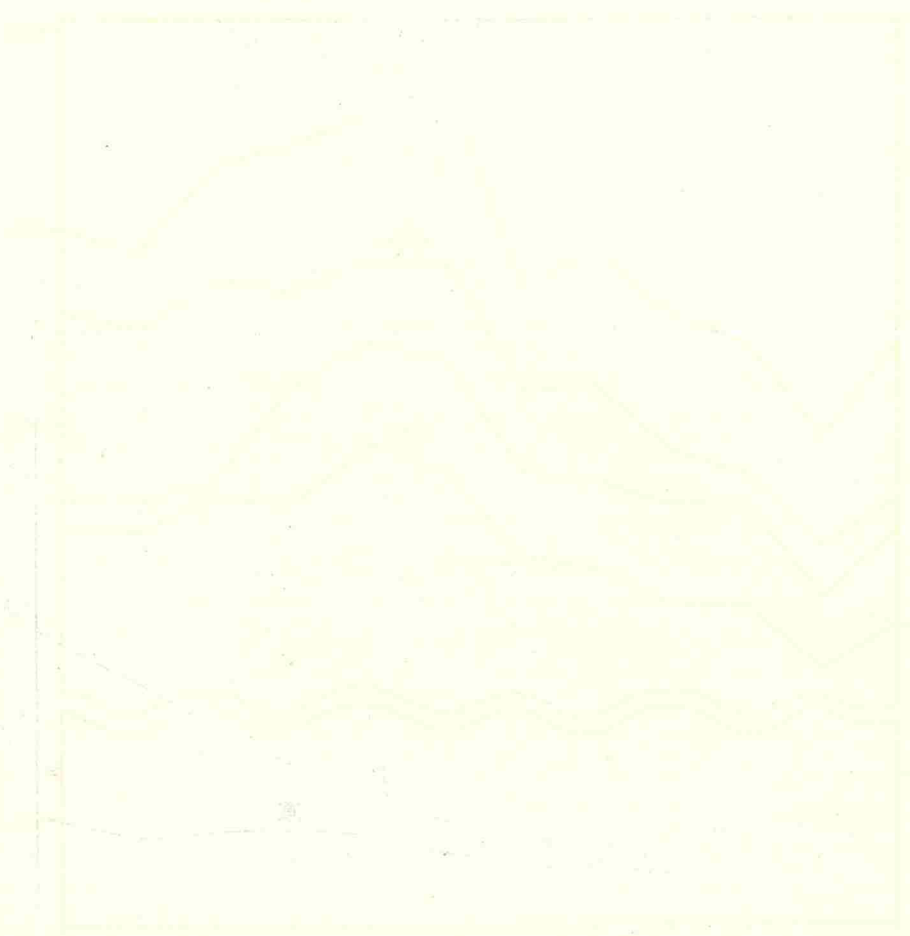


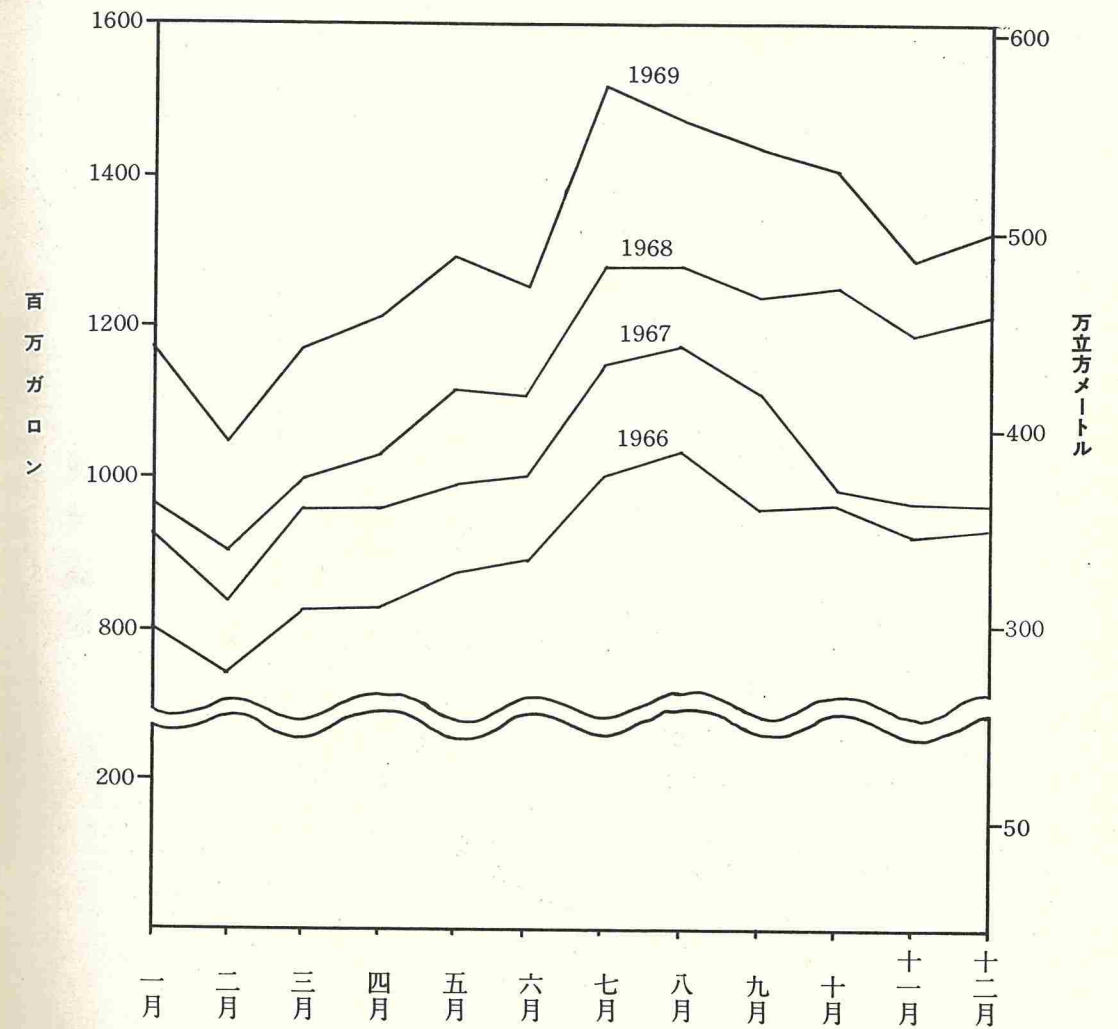
表-2B



全島統合上水道需要量の推移

(泊浄水場生産量を含む)

年度別月需要量



年間1日平均及び最大需要量

単位 100 万ガロン

	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
平均	18.6	20.1	23.3	20.1	22.4	25.4	29.4	32.8	36.9	42.3
最大	22.4	24.3	27.6	24.2	27.5	30.9	34.9	40.0	44.0	55.0

市町村別公社給水量の推移

会 計 年 度

市 町 村	単 位 1,000ガロン						
	63年	64年	65年	66年	67年	68年	69年
那 覇 市 *	1,962,637	2,004,239	2,614,283	2,933,187	3,490,673	4,231,361	5,035,320
コザ市	353,514	378,968	520,206	647,723	782,013	959,038	1,144,967
宜野湾市	232,416	348,862	490,510	608,565	668,643	778,712	939,179
浦添村	66,009	164,635	335,458	425,689	562,719	684,998	811,603
美里村	26,187	59,682	165,466	192,707	231,043	269,835	310,607
县志川市	83,257	87,665	104,794	144,543	182,932	229,753	258,464
読谷村	30,234	45,678	67,016	104,109	152,631	192,209	225,548
嘉手納村		14,357	67,436	164,561	155,735	159,676	181,665
北谷村	39,888	41,026	92,278	124,497	145,335	158,135	178,240
北中城村	4,546	10,743	38,941	88,164	108,210	126,382	153,417
与那城村		4,042	5,882	7,932	13,850	16,701	19,108
西原村					1,279	7,308	15,203
石川市						25,969	79,183
豊見城村						1,030	9,305
中城村							6,272
与那原町							18,469
勝連村							297
南部地区東部上水道							42,440
その他の	999,593	414,709	214,620	57,103	39,688	97,747	109,048
計	3,798,281	3,574,606	4,716,890	5,498,780	6,534,751	7,938,854	9,538,335

* 泊浄水場生産量を含む

市町村別公社給水量の推移

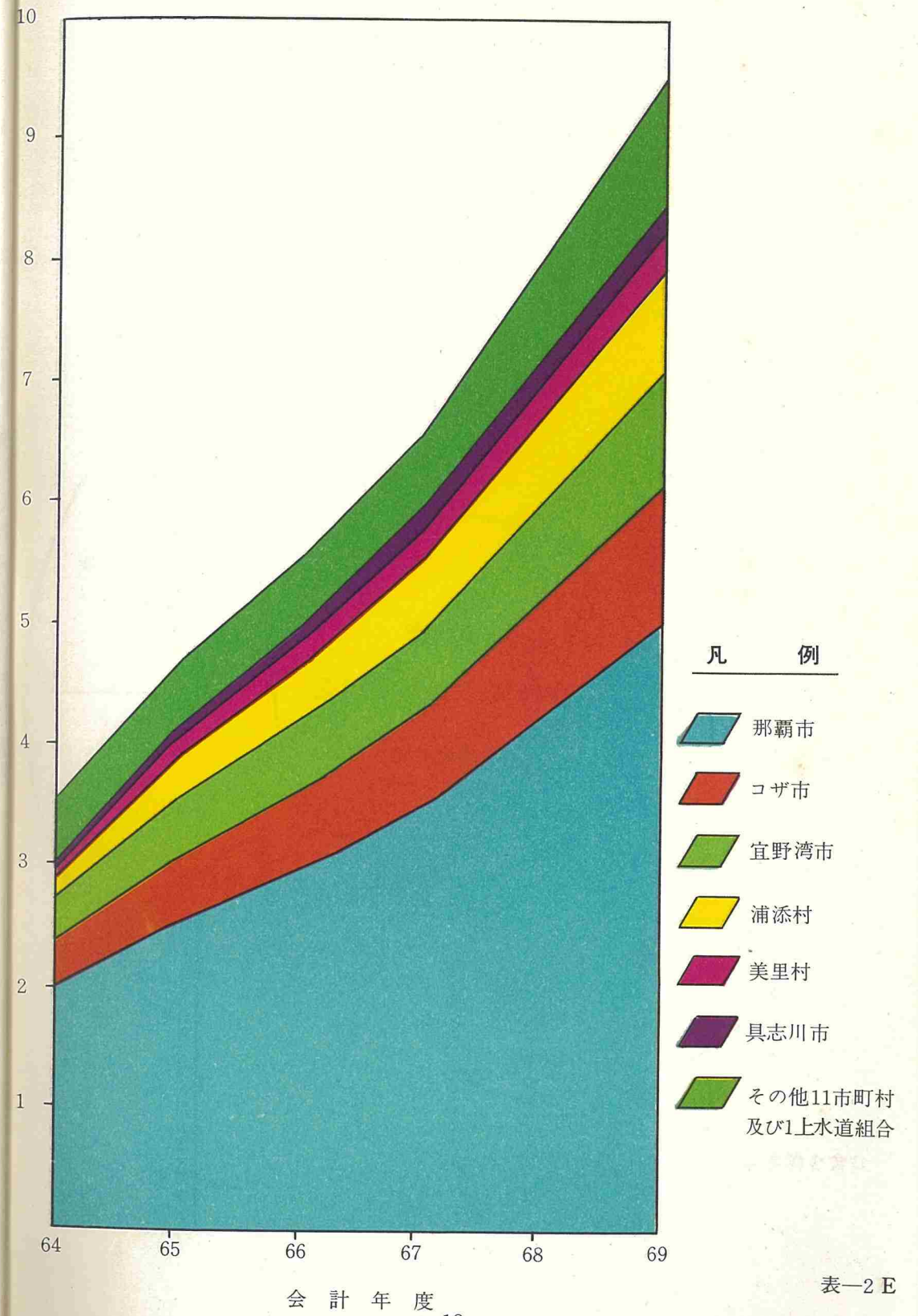
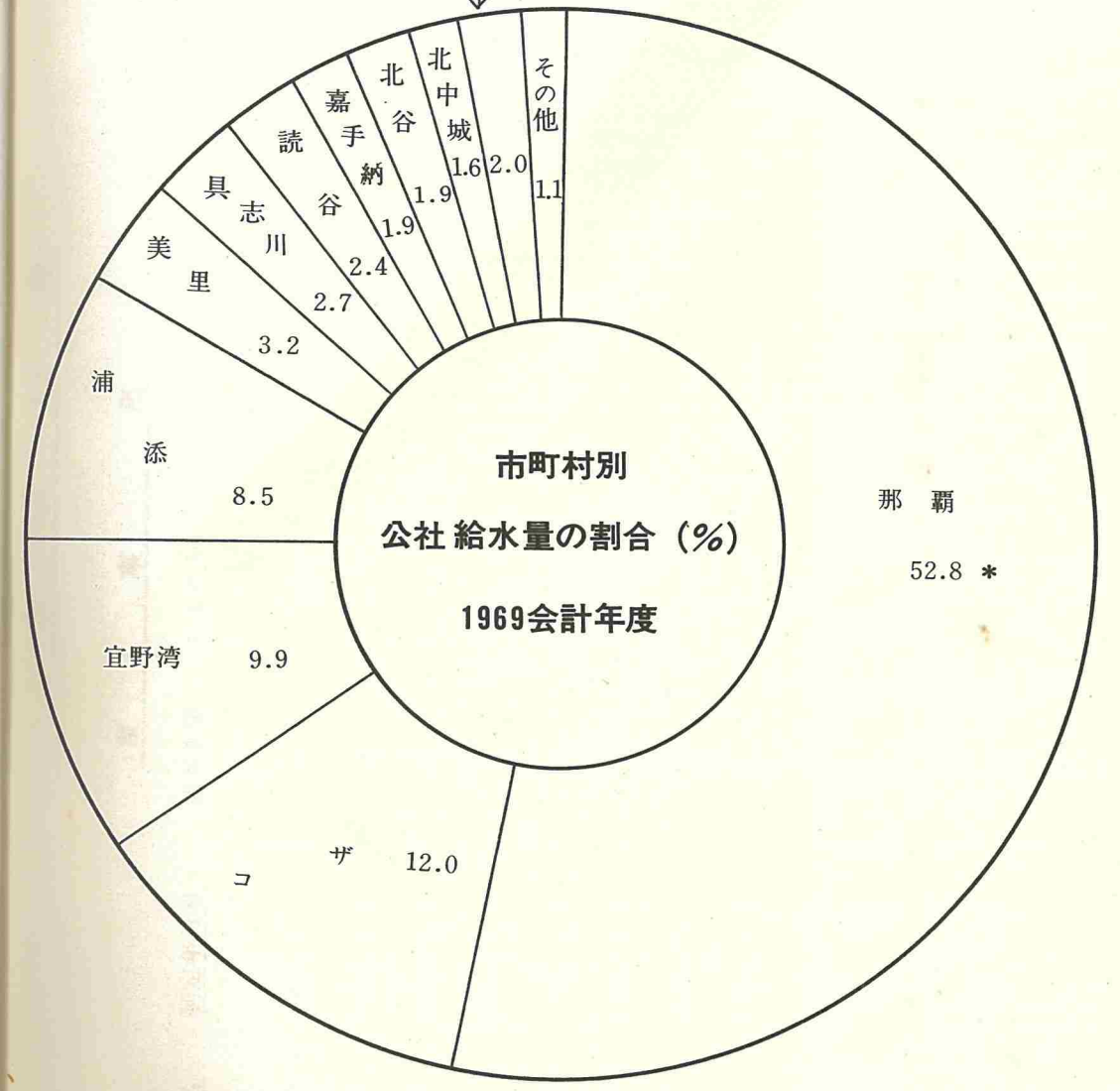


Table with 7 columns and 10 rows of data, likely representing the same information as the chart but in a tabular format. The data is extremely faint and difficult to read.

表-2 E



東 南 勝 与 中 豊 石 西 与
部 部 那 那 中 見 川 那
水 地 那 那 城 城 川 原 城
道 区 連 原 城 城 川 原 城



* 泊浄水場を含む

表-2F

水道料金

1969年12月末現在

市町村名	制定年月日	家		事		用		業		用
		基本水量 (立方米)	基本料金(\$)	基本料金(\$)	超過料金(\$)	基本水量 (立方米)	基本料金(\$)	超過料金(\$)		
那覇市	1966. 7. 1	8	1.00	0.15	0.15	10	1.50	0.16	0.16	(1 立方米につき)
浦添村	1969. 7. 1	8	1.10	0.15	0.15	10	1.50	0.16—0.14	0.16—0.14	
宜野湾市	1969. 7. 1	8	1.10	0.15	0.15	10	1.60	0.16—0.12	0.16—0.12	
コザ市	1966. 7. 1	8	1.10	0.13	0.13	8	1.55	0.20—0.13	0.20—0.13	
美里村	1964. 7. 1	8	1.50	0.12	0.12	10	2.00	0.17—0.11	0.17—0.11	
具志川市	1965. 7. 1	8	1.50	0.12	0.12	8	2.00	0.15—0.10	0.15—0.10	
与那城村	1969. 7. 1	8	1.50	0.12	0.12	10	2.00	0.16—0.10	0.16—0.10	
読谷村	1969. 7. 1	8	1.20	0.15	0.15	10	1.60	0.15—0.11	0.15—0.11	
嘉手納村	1967. 1. 1	8	1.36	0.15	0.15	10	1.70	0.15	0.15	
北谷村	1967. 7. 1	8	1.50	0.12	0.12	10	2.20	0.12	0.12	
北中城村	1964. 7. 1	8	1.40	0.12	0.12	10	1.80	0.14—0.11	0.14—0.11	
西原村	1969. 7. 1	8	1.50	0.15	0.15	10	2.00	0.18—0.16	0.18—0.16	
石川市	1967. 9. 1	8	1.50	0.12	0.12	10	1.90	0.17—0.11	0.17—0.11	

市 町 村 名	制定年月日	家 事 用			营 業 用		
		基本水量 (立方米)	基本料金 (\$) (1 立方米につき)	超過料金 (\$) (1 立方米につき)	基本水量 (立方米)	基本料金 (\$)	超過料金 (\$) (1 立方米につき)
与 那 原 町	1967. 7. 1	8	1.50	0.12	10	2.00	0.16—0.08
豊 見 城 村	1967. 7. 1	8	1.50	0.12	10	1.90	0.17—0.10
南部東部水道	1968. 8. 1	8	0.85	0.10—0.15	10	1.20	0.15
中 城 村	1968. 7. 1	8	1.60	0.12	10	2.00	0.18—0.16
糸 満 町	1969. 7. 1	8	1.00	0.14	10	1.50	0.16—0.12
佐 敷 村	1969.12.18	8	1.50	0.12	10	2.00	0.16—0.08
勝 連 村			検	討			中

用水供給事業現行水道（卸し）料金例

事業者名	1立方米当り料金（円）	現行料金実施年月日
(原水)		
大阪府 水道公社	8.00	昭和 40. 4. 1
大 琉球水道公社	7.56	33. 9. 4
(浄水)		
三重県 重 約	48.00	43. 11. 7
奈良県 良	30.00	45年 7 月供給開始予定
愛知県 知	21.00	37. 1. 1
琉球水道公社	20.88	33. 9. 4
富山県 山	18.00 (新湊市)	43. 7. 1
阪神企業団	16.85	42. 10. 1
大阪府 分賦割合	16.00	40. 4. 1
大阪北企業団	15.00	42. 4. 1
茨城県 城	15.00 (県南企業団)	42. 4. 1
京都府 都	14.14	39. 12. 1
長崎県 鹿尾川組合	14.00	44年度予定単価
富山県 山	13.00 (高岡市)	43. 7. 1
広島県 藤井川企業団	11.50	44. 4. 1
埼玉県 玉	11.00	43. 4. 1
茨城県 城	11.00 (阿見町)	42. 4. 1
富山県 山	11.00 (小杉町)	43. 7. 1
岡山県 備南企業団	7.00	42. 4. 1

注 1) 1ドルは公定レート of 360 円として換算した。
 2) 日水協1969年度水道料金表による。

市町村現行水道（小売り）料金例

市町村名	家庭用		営業用	
	基本	超過	基本	超過
岡山県 興除村	立方米 8	円 750	立方米	円
北海道 栗沢町	8	650	8	750
岡山県 藤田村	8	610	8	840
鹿児島県 坊津町	6	450	6	600
兵庫県 永上町（東）	5	300	家庭用	に同じ
長崎県 平戸市	10	500	家庭用	に同じ
富山県 新湊市	8	350	8	450
茨城県 南企業団	8	360	16	750
広島県 尾道市	8	300	10	440
佐賀県 賀尾市	10	385	10	420
富山県 小杉町	10	350	—	—
長崎県 崎	8	350	—	—
新潟県 潟	4	250	—	—
熊本市 本	8	240	—	—
佐世市 保	8	240	—	—
富山県 山	10	300	—	—
青森県 森	8	210	—	—
茨城県 阿見町	10	270	—	—
富山県 高岡市	10	270	—	—
	10	260	—	—
			1立方米当り（円）	1立方米当り（円）
			60	
			70	70
			60	90
			50	50
			20	同じ
			55	同じ
			50	60
			45	45
			51	55
			45	50
			38	
			12立方米まで70	
			13立方米以上80	
			35	同じ
			32	同じ
			49	同じ
			33	40
			33	50
			30	40
			20立方米まで35	44
			21立方米以上40	

31立方米当り(円)
 20立方米当り(円)
 11立方米当り(円)
 22
 30立方米当り(円)
 31立方米当り(円)

市町村名

	家庭用		営業用	
	基	本	基	本
宮崎	立方米	円	立方米	円
	8	160	8	200
金沢	10	170	10	215
横浜	10	160	10	160
広島	10	155	10	155
岡山	8	128	8	176
静岡	8	125	8	125
名古屋	10	140	10	150
大阪	8	100	家庭用に同じ	
	10	130		
兵庫県	8	100	8	125
高砂市			20	300
鳴子町	10	100	10	80
長野県	10	80	10	80
下諏訪町				

市町村名	家庭用		営業用	
	基	本	基	本
那覇市	8	360	10	540
コザ市	8	396	8	558
宜野湾市	8	396	10	576
志賀市	8	540	8	720
北谷村	8	540	10	792
浦添村	8	396	10	540

市町村名	家庭用		営業用	
	基	本	基	本
那覇市	8	360	10	540
コザ市	8	396	8	558
宜野湾市	8	396	10	576
志賀市	8	540	8	720
北谷村	8	540	10	792
浦添村	8	396	10	540

注) 1) 1ドルは公定レート(360円)として換算した。

2) 日本水協1969年度水道料金表による。
 なお、日本水協の全国1,113ヶ所の料金調査によると83.5%が家庭用基本料金10立米当り151~400円を占めている。

市町村別大口需要者一覽表

(68会計年度月平均)

順位	市町村	市町村													
		コザ市	那覇市	北谷村	具志川市	北中城村	浦添村	読谷村	宜野湾市	美里村	嘉手納	西原村	石川市	与那原	
1	需 要 者	東洋ホテル	東急ホテル	伊波実昭	中部病院	プラザ給油所	ベストソーダ	渡ヶ次小校	ペプシコーラ	球陽製氷	大山盛保	中部製糖第二工場	伊波城観光モーター	でいご湯	
	業 種	ホテル業	ホテル業	レストラン	公立	給油業	清涼飲料	学 校	清涼飲料	製氷所	給油業	ホテル業	ホテル業	銭 湯	
	月平均使用水量	2,040 m ³	5,520 m ³	1,190 m ³	6,021 m ³	884 m ³	9,187 m ³	381 m ³	12,581 m ³	544 m ³	357 m ³	1,220 m ³	2,475 m ³	303 m ³	
	月平均料金	\$277.88	\$888.10	\$141.60	\$661.86	\$104.18	\$761.26	\$38.12	\$1,025.63	\$70.78	\$50.38	\$280.58	\$283.85	\$29.52	
2	需 要 者	コザパレス	沖縄プライウッド	喜納静枝	諸見里酒造	ズケラン給油所	アメリカンボートリング	読谷中校	沖縄ヤクルト	ヨットクラブ	知花包清	中部製糖第一工場	石川中学	港 湯	
	業 種	ホテル業	ベニヤ工場	レストラン	酒造業	給油所	学 校	学 校	清涼飲料	レストラン	レストラン	第一工場	学 校	銭 湯	
	月平均使用水量	1,710 m ³	2,500 m ³	473 m ³	4,022 m ³	819 m ³	3,860 m ³	379 m ³	1,772 m ³	444 m ³	241 m ³	495 m ³	687 m ³	167 m ³	
	月平均料金	\$234.98	\$399.90	\$55.56	\$413.17	\$96.95	\$337.81	\$41.66	\$160.91	\$59.77	\$36.35	\$113.94	\$75.20	\$18.15	
3	需 要 者	京 都	沖縄ランドリー	高宮城実正	前原高校	屋宜原レストラン	オキコ株式会社	読谷高校	モーニングスター	ダンサーホテル	為 幸 夫	金秀鉄工	石川保健所	島尻医院	
	業 種	ホテル業	クリーニング	レストラン	学 校	レストラン	清涼飲料	学 校	新聞社	ホテル業	バー	アルミ製品加工	政府立	開業医	
	月平均使用水量	1,694 m ³	2,274 m ³	330 m ³	1,254 m ³	560 m ³	3,677 m ³	331 m ³	1,420 m ³	259 m ³	187 m ³	316 m ³	674 m ³	123 m ³	
	月平均料金	\$232.90	\$363.14	\$38.40	\$138.50	\$72.87	\$323.80	\$40.17	\$132.75	\$38.70	\$28.24	\$54.06	\$82.52	\$19.63	
4	需 要 者	琉球少年院	国場ベニヤ	沖縄建設工業	市営屠殺場	泡瀬ホテル	沖縄コココーラ	読谷小校	ビザハウス	RCコーラ	多和田真正	西原温泉k.k.	石川高校	与那原テック遊園地	
	業 種	政府施設	ベニヤ工場	生コン販売	屠 殺	ホテル業	ボートリングk.k.	学 校	レストラン	清涼飲料	レストラン	温泉兼レストラン	学 校	遊園地	
	月平均使用水量	1,688 m ³	1,951 m ³	286 m ³	842 m ³	448 m ³	3,182 m ³	264 m ³	1,094 m ³	251 m ³	175 m ³	313 m ³	420 m ³	118 m ³	
	月平均料金	\$219.67	\$312.06	\$33.12	\$95.13	\$56.09	\$286.97	\$23.95	\$106.67	\$37.44	\$26.49	\$53.75	\$42.96	\$19.61	
5	需 要 者	バリー	オキコ株式会社	坂野建一	中部農林高校	大西ゴルフ場	ブルーシール	読谷給油所	泊ランドリー	諸見里医院	古 堅 建		伊波小校		
	業 種	ホテル業	製菓業	生コン販売	学 校	レストラン兼業	乳製品	給油業	ランドリー	開業医	バー		学 校		
	月平均使用水量	1,288 m ³	1,552 m ³	182 m ³	703 m ³	422 m ³	2,378 m ³	187 m ³	1,076 m ³	238 m ³	163 m ³		370 m ³		
	月平均料金	\$180.12	\$248.22	\$20.64	\$87.81	\$57.44	\$221.78	\$22.67	\$105.23	\$35.77	\$24.59		\$41.23		

順位	市町村	市町村										
		コザ市	那覇市	北谷村	具志川市	北中城村	浦添村	読谷村	宜野湾市	美里村	嘉手納	石川市
6	需 要 者	中之町小校	琉球水産	高江洲良子	コザ看護学校	ライカムホテル	沖繩給食	古堅中校	ホテル大名	沖繩紡績	桃原惣福	石川
	業 種	学 校	冷 凍 業	ドライブイン	政 府 立	ホ テ ル	センター	学 校	ホ テ ル 業	紡 績 工 場	レ ス ト ラ ン	ド ラ イ ブ イ ン
	月平均使用水量	1,134 m ³	1,369 m ³	141 m ³	652 m ³	420 m ³	1,653 m ³	178 m ³	1,051 m ³	218 m ³	160 m ³	254 m ³
	月平均料金	\$136.32	\$228.94	\$15.72	\$72.54	\$53.12	\$165.25	\$21.73	\$103.23	\$24.15	\$24.26	\$38.43
7	需 要 者	潮平病院	沖繩ホテル	富川盛山	安ヶ名中学	レイウエストン	総合紙器	喜名小校	大平アパート	料亭大和	諸見里安蔵	宮森小校
	業 種	開 業 医	ホ テ ル 業	製パン業	学 校	ア パ ー ト	段ホール製造	学 校	ア パ ー ト		ホ テ ル 業	学 校
	月平均使用水量	899 m ³	1,333 m ³	137 m ³	489 m ³	366 m ³	1,617 m ³	149 m ³	788 m ³	149 m ³	143 m ³	166 m ³
	月平均料金	\$129.29	\$213.18	\$15.24	\$54.38	\$46.45	\$162.09	\$18.31	\$82.19	\$24.15	\$21.63	\$16.23
8	需 要 者	クラウン	天久台精神	宮里幸太郎	中央配電(株)	喜名昌徳	アメリカンフ		レストラン	外間平吉	古堅裕亮	石川警察署
	業 種	ホ テ ル 業	病 院	レ ス ト ラ ン	配電会社	ア パ ー ト	ートサービスkk	写 真 業	レ ス ト ラ ン	砂 販 売 業	ア パ ー ト	
	月平均使用水量	853 m ³	1,251 m ³	132 m ³	471 m ³	210 m ³	1,485 m ³	774 m ³	128 m ³	138 m ³	147 m ³	
	月平均料金	\$123.57	\$200.56	\$14.64	\$57.21	\$28.11	\$151.98	\$81.07	\$21.44	\$20.83	\$18.65	
9	需 要 者	広東飯店	小椋給食	田場盛幸	兼原小校	ファーマー	ジョーンズ		普天間小校	高江 誉	比嘉清幸	ホテルムーン
	業 種	レ ス ト ラ ン	調 理 場	修理工場	学 校	エクスチェンジ	ベーカリー	製パン業	学 校	養 豚 業	雑 貨 店	ホ テ ル 業
	月平均使用水量	813 m ³	1,085 m ³	131 m ³	368 m ³	155 m ³	1,288 m ³	709 m ³	110 m ³	97 m ³	134 m ³	
	月平均料金	\$118.37	\$173.50	\$14.52	\$41.05	\$21.46	\$136.25	\$68.17	\$18.65	\$14.77	\$22.43	
10	需 要 者		辻町ヘルス	玉那覇明	泰石酒造	沖繩物産	琉 石		普天間中校	渡ヶ次医院	平良専信	石川公設
	業 種		セ ン タ ー	酒 造 業	酒 造 業	物産問屋	石 油 販 売		学 校	開 業 医	バ ー	市 場
	月平均使用水量		572 m ³	108 m ³	327 m ³	73 m ³	1,212 m ³	676 m ³	104 m ³	94 m ³	109 m ³	
	月平均料金		\$91.42	\$11.70	\$42.70	\$10.74	\$129.27	\$65.85	\$16.70	\$14.33	\$19.52	

注 与那原は“69年1月から3月まで、北谷村は“68年4月から“69年3月まで、北中城村は“68年7月から“69年4月までの平均、 その他の市町村は“68会計年度平均

区	町	村	人口	給水人口	普及率	水道	簡易水道	専用水道	施設数
北	那覇	那覇市	124,000	104,460	84.2	4	120	1	125
		那覇市	323,500	235,290	72.7	11	28	-	39
中	那覇	那覇市	133,700	94,060	70.3	3	75	-	78
		那覇市	279,400	248,460	88.9	1	4	-	5
南	那覇	那覇市	64,900	50,600	78.0	2	2	1	5
		那覇市	48,500	40,790	84.1	1	33	-	34
合計			974,000	773,660	79.4	22	262	2	286

全琉水道普及率及び施設数

(1969年6月30日現在)
琉球政府都計課 調査

地	区	部	総人口	給水人口	普及率	上水道		簡易水道		専用水道		施設数
						数	給水人口	数	給水人口	数	給水人口	
北	部	那覇	124,000	104,460	84.2	4	31,380	120	72,130	1	950	125
		那覇	323,500	235,290	72.7	11	196,680	28	38,610	-	-	39
中	部	那覇	133,700	94,060	70.3	3	37,370	75	56,690	-	-	78
		那覇	279,400	248,460	88.9	1	243,960	4	4,500	-	-	5
南	部	那覇	64,900	50,600	78.0	2	48,870	2	1,480	1	250	5
		那覇	48,500	40,790	84.1	1	29,850	33	10,940	-	-	34
合計			974,000	773,660	79.4	22	588,110	262	184,350	2	1,200	286

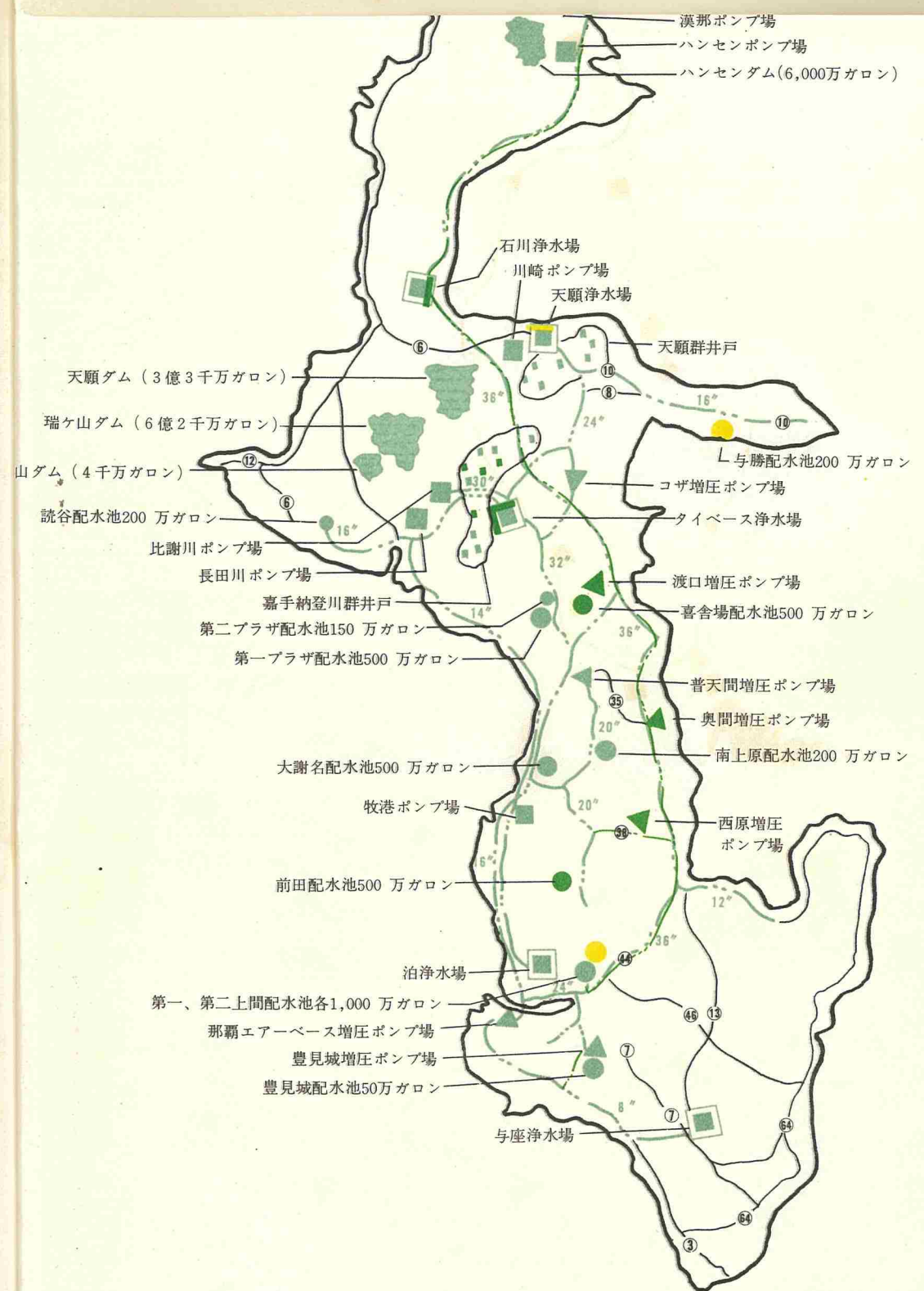
注：北部（2町15村），中部（4市10村），南部（2町16村），那覇（1市），宮古（1市2町3村），八重山（1市2町）

全島統合上水道主要施設





東京都下水道局
 東京都下水道局
 東京都下水道局



漢那ポンプ場
 ハンセンポンプ場
 ハンセングム(6,000万ガロン)
 石川浄水場
 川崎ポンプ場
 天願浄水場
 天願群井戸
 天願ダム(3億3千万ガロン)
 瑞ヶ山ダム(6億2千万ガロン)
 山ダム(4千万ガロン)
 読谷配水池200万ガロン
 比謝川ポンプ場
 長田川ポンプ場
 嘉手納登川群井戸
 第二プラザ配水池150万ガロン
 第一プラザ配水池500万ガロン
 大謝名配水池500万ガロン
 牧港ポンプ場
 前田配水池500万ガロン
 泊浄水場
 第一、第二上間配水池各1,000万ガロン
 那覇エアベース増圧ポンプ場
 豊見城増圧ポンプ場
 豊見城配水池50万ガロン
 与座浄水場
 天願群井戸
 L与勝配水池200万ガロン
 コザ増圧ポンプ場
 タイベース浄水場
 渡口増圧ポンプ場
 喜舎場配水池500万ガロン
 普天間増圧ポンプ場
 奥間増圧ポンプ場
 南上原配水池200万ガロン
 西原増圧ポンプ場

凡 例

	導配水管	浄水場	取水ポンプ場	増圧ポンプ場	配水池	深井戸	貯水池
既 設	———	■	■	▲	●	■	■
1970会計年度	———	■	■	▲	●	■	■
将来計画	———	■	■	▲	●	■	■



全島統合上水道の現況と計画の概要

正 誤 表

頁	表	欄	行	誤	正
目次			上から 6	関連する	関連する
1	(2)	右	浄水能力	600 (22.7) 4,950 (187.5)	600 (22.7) 4,950 (187.5)
5			上から11	人口分布上下利な	人口分布上不利な
			下から 9	具志川に於ける	具志川市に於ける
			下から 2	これと併行して	これと併行して
7			上から 2	水源として	水源として
			下から 8	開発するにあたって、	開発するにあたって、
14	表-2A	見出	上から 1	<u>全島統合水道 1日平均需要量</u>	<u>全島統合水道 1日平均需要量</u> (浄水場生産量を含む)
17	表-2D	右上	上から 1	単位 1,000ガロン	単位 1,000ガロン
19	表-2F	左上	上から 1	東南勝 部部 水地 道区 連	南東勝 部部 上地 水道 連
22	表-4A	右上	上から 1	現行料金実施年月日	現行料金実施年月日
25	表-4B	超 過	宜野湾市2	201~500立方メートルまで50	201~500立方メートルまで50
26	表-5		市町村	嘉手納 西原村 石川市 与那原	嘉手納村 西原村 石川市 与那原町
			コザ市	上から 3 2,040m ³	2,040m ³
			具志川市	上から 3 6,021m ³	6,012m ³
27	表-5		市町村	嘉手納	嘉手納村
			美里村	下から 1 \$16.70	\$16.77
		欄外		注 与那原は	注 与那原町は